

平成23年度
宇都宮短期大学附属高等学校入学試験問題

国 語

注 意

- 1 監督者の「始め」の合図があるまでは、開いてはいけません。
- 2 試験時間は、板書されている時間割のと通りの50分間です。
- 3 問題数は大きな問題が5問で、表紙を除いて10ページです。
- 4 解答用紙は1枚で、答え方はマークシート方式です。
- 5 監督者の指示にしたがって、試験開始前に受験番号と氏名を解答用紙のきめられた欄に書き、さらに受験番号をマーク欄にマークしなさい。
- 6 答えは、解答用紙に記載されている〔解答マーク記入上の注意〕、および試験開始前に行われたマークシート練習プリントにしたがって、ていねいにマークしなさい。
- 7 試験中に質問があれば、手をあげて監督者に聞きなさい。
- 8 監督者の「やめ」の合図があったら、すぐやめて、鉛筆をおきなさい。

一

次のそれぞれの問いに答えよ。

問一

次の――線の(1)、(2)は同じ読みのもを、(3)、(4)のカタカナは同じ漢字を用いるものを、それぞれ「」の中から選べ。

(1) 石 碑

〔ア 百万石〕 イ 石 炭 ウ 棒磁石 エ 石 高

(2) 性 分

〔ア 氣 性〕 イ 性 癖 ウ 惰 性 エ 性 情

(3) ショウ 塹

〔ア 故 ショウ〕 イ 解 ショウ ウ 論 ショウ エ 縮 ショウ

(4) サイ 断

〔ア 体 サイ〕 イ 掲 サイ ウ 色 サイ エ 盆 サイ

問二

「負傷」と成り立ちが同じ熟語は、次のどれか。

ア 善良 イ 嚴守 ウ 紅白 エ 尽力

問三

「立て板に水」の意味に最も近い熟語は、次のどれか。

ア 実質 イ 能弁 ウ 危機 エ 優雅

二

次のそれぞれの問いに答えよ。

問一

次の例文のようにと意味・用法が同じものは、後のどれか。
一月だというのに、今日はまるで春のように暖かい。

ア 彼は野球の試合に勝ち、子どものようににはしゃいでいる。

イ 世界中が平和になるという願いが、どうぞかありませんように。

ウ 私の目標は、彼のようににだれからも慕われる人になることだ。

エ 学校に遅刻しないために、八時前に着くように家を出る。

問二

次の例文のがと意味・用法が同じものは、後のどれか。
風が強く吹き付け、しだいに台風が近づいている。

ア 暑い中ずっと外にいたので、冷たい水が飲みたい。

イ 彼女は何でもできる人で、字もうまいが絵もうまい。

ウ その問題について、何度も繰り返し考えたがわからない。

エ とてもお忙しいようなので、私がお手伝いをします。

問三

次の例文のくれたを尊敬語に改めるとき、最も適当なものは後のどれか。
卒業式の日、先生が私たちに記念品をくれた。

ア さしあげた イ くれました

ウ いただいた エ くださった

三

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

昔、身の色は五色にて、角の色は白き鹿一つありけり。①深山にのみ住みて、人に知られず。その山に大きな川あり。この川に男一人流れて、②すでに死なんとす。「助けよ」と叫ぶに、この鹿、この男を助けてけり。男、悦びて、手をすり合はせて鹿に向ひて、「何事をもちてか、この恩を報ひ奉るべき」といふ。鹿の曰く、③「ただこの山に我ありといふ事を、ゆめゆめ人に語るべからず。人知りなば、我が皮を取らんとて、必ず殺されなん。この事を恐るるによりて、かかる深山に隠れて、あへて人に知られず。しかるを、汝が叫ぶ声を悲しみて、身の行く末を忘れて、助けつるなり」といふ時に、男、④「これまことに理なり。さらにもらす事あるまじ」と、返す返す契りて去りぬ。（「宇治拾遺物語」から）

問一

(a) すでに死なんとす (b) 返す返す契りての本文中での意味は、それぞれ後のどれか。

- (1) **ア** もう死を覚悟していた **イ** あたかも死んだようである
ウ 今にも死にそうである **エ** 以前から死のうとしていた
- (2) **ア** 返す返す契りて **イ** 繰り返し約束して
ウ 何度も何度も手をふって **エ** 重ね重ね反省して

問二

① 深山にのみ住みて、とあるが、この理由として適当なものは、次のどれか。

- ア** 住む山を出ようにも大きな川に行く手を阻まれているから
イ 他の鹿とは異なる五色のわが身や白い角を恥じていたから
ウ 欲にまみれた人の世とはかけはなれた神聖な生き物だから
エ 人の目に触れれば皮をはぎ取るために殺されてしまうから

問三

② この鹿、この男を助けてけり。とあるが、この時の「鹿」の心情として最も適当なものは、次のどれか。

- ア** あふれるばかりの情熱 **イ** おさえきれないほどの同情
ウ 我を忘れるような驚き **エ** いいよのないもの悲しさ

問四

③ ゆめゆめ人に語るべからず。とあるが、この部分の説明として最も適当なものは、次のどれか。

- ア** 「当然人に話すはずはないな」という確認を表している。
イ 「とても人には話せない」という不可能を表している。
ウ 「もちろん人に話すつもりはない」という意志を表している。
エ 「絶対に人に話してはいけない」という禁止を表している。

問五

④ この指し示す内容として最も適当なものは、次のどれか。

- ア** 鹿の頼み **イ** 鹿の助け
ウ 鹿の情け **エ** 鹿の運命

四

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

今日、多様なファッションを楽しむ学生たちも、就職戦線が近くとその活動のためのリクルート・ファッションに身を包んで会社訪問を始める。男性に比べて女性の場合は、業種によって色彩やデザインなどかなりヴァリエーションの幅があるようだが、着るものはやはり堅いイメージのスーツが多い。リクルート・ファッションを通して学生たちは、企業に社会人としての覚悟を示し、仕事のできる有能な人材であることをアピールするのである。

衣服というのはつねにさまざまな情報を伝達する働きをしてきた。P・G・ボガトウイリヨフは自身の著書の中で、言語学をモデルにしてヨーロッパ中部スロヴァキア地方の民俗衣裳を分析し、衣服がそれを着用する人の民族や住む地域、宗教、年齢、既婚・未婚の区別、社会的地位、財産の有無、さらにはそれを着用した日が祝日か平日かまでも示す記号であることを詳細に示した。どのような文化でも、^①衣服には記号体系としての側面があり、それはその社会の特性を端的に表している。わが国では明治以来、男性の洋装化と女性のそれとのあいだには大きな格差があったが、それは近代化Ⅱ西洋化が男性のものであったことの視覚化であるし、昨今、街に女性のスーツ姿を多く見かけるようになったのも、女性の社会進出と深く関わっている。

^②リクルート・スーツは着る側に着こなしの準備がないため、スーツばかりが浮いて見えてしまうのだが、仕事をもつ女性たちのなか

にはテーラード・スーツやジャケットなどの堅いイメージの衣服を、さりげなくファッションナブルに着こなす人が少なくない。

A 今日では他の婦人服が時代を経てより実用的なデザインになったため、テーラード・スーツは男性のビジネス・スーツと象徴的屬性を共有しているという意味で人びとに採用され、キヤリアウーマン・ファッションの典型となっている。

B それは男性社会への参加を意味するとともに、ひとりでは着られ、シンプルで動きやすいという実用性も兼ね備えていた。

C テーラードとは男子服仕立ての意であり、テーラード・スーツは一九世紀後半、ヨーロッパで男性の衣服のデザインや縫製を借用して作られ、当時、登場し始めた教師や看護婦といった職業婦人たちに用いられた。

D テーラード・スーツを着ることが、女性が男性と同等に仕事をするためにとられた一種の戦略とするなら、さらに進めて女性が成功するためのファッションというものも考えられよう。

A・リュリーは、『成功する服装―女性版』を引用し、「昇進を勝ち取る」ための方法を次のように説いている。「いうまでもなくその秘訣は、高価な、(a) 保守的な『スーツ』と地味なブラウスの組み合わせだという。スーツの色は中間的なグレイか紺で生地は

ウール。セーター、パンツ、派手な色、スリットのあるスカート、長い髪、^(注1)カーリー・ヘアはことごとく^(注2)「法度」。相手に望ましい自己の情報を意図的に提示する ※ は、公的な役割演技が期待される仕事の場でことに有効に働くからである。

そして実際、仕事をもって活躍している女性ほど、自分の置かれた位置を客観的に理解し、ファッションを通じて巧みに印象操作を行っているようである。(b)、筆者が取材した、ある大手外資系企業の日本支社で秘書をしている女性は、仕事には必ずスーツを着用し、パンツやワンピースを着ることはないという。スカートは、^(注3)実際には歩きにくいのだがシンプルで **I** が好まれるため、^(注3)タイト・スカートをはく。会議の日にはとくにかちつとした感じを出すために気を配る。色は、**II** の紺やブルーが多い。

(c)、大手メーカーの本社教育担当の女性は、衣服のイメージをその日の仕事の内容に合わせて工夫するという。若い女性の研修の場合には彼女たちに職場のファッションの見本を示し、男性の長期研修のときには女性としての役割期待に応え、^(注4)殺伐とした雰囲気や和らげるために、たとえば同じスーツでも **III** のものを着たりする。男性ばかりの会議に「若い女性」を代表する立場で出席する場合には、**IV** の服を選び、発言が少しでも取り上げられるよう存在意義を強調するという。

女性がファッションに強い関心をもつ理由について、江原由美子は、女性が社会化によってそうした^(注5)パーソナリティを植えつけられることに加え、つぎの二つを挙げている。ひとつは、女性に対する

評価が私生活によってなされ、その私生活を表すものが衣服だとみなされていること。もうひとつは、結婚式に華やかな衣装を着たり、企業では女性だけに制服があることなどにかがわれるように、女性には服装によって状況の定義を行うように社会から要求されているということである。(d)、働く女性たちの衣服への心配りの背景には、^(注3)こうした理由があると思われる。だからこそ彼女たちは、ファッション産業とメディアがつくり出すスタイルを単に受け入れるだけでなく、それを利用して、「キャリアウーマン・ファッション」を身に着けることで状況定義に積極的に関わり、男性社会のなかで独自の仕事の間を創出していくことに成功しているのだろう。

現実には誰も^(注6)が颯爽たる「キャリアウーマン」になれるわけではないが、「キャリアウーマン・ファッション」のイメージは、職場の男性のビジネス・スーツ以上に状況定義の力をもっており、女性が仕事をする上でひとつの戦略となりうる。映画『ワーキング・ガール』は、証券会社の秘書が上司の女性になりすまして成功するサクセス・ストーリーだが、^(注4)彼女が最初にしたことは、膨らんだカーリーヘアを切り、^(注4)けばけばしいメイクをナチュラルにし、全身をキャリアウーマン・スタイルに整えることであった。

(河原和枝『私らしさ』の神話)から

(注1) カーリー・ヘアは全体にカールさせた髪型
(注2) ご法度は一般に禁じられていること
(注3) タイト・スカートはびつたりとしたスカート

(注4) 殺伐とした^{さつぱつ}うるおいやあたたかみの感じられないさま

(注5) パーソナリティ^{パーソナリティ}個性。人格

(注6) 颯爽たる^{さつさう}爽やかで勇ましいさま

問一 ① 衣服には記号体系としての側面があり、とあるが、その説明として適当なものは、次のどれか。

ア 衣服は着ている人の個性や属する社会の性質を表し、それは民族や地域の枠組を越えるということ

イ 衣服は、着る人の個人の特性と、属する社会の文化的特性を表す働きもあるということ

ウ 男女のどちらか一方の衣服にだけ注目してしまうと、多様な社会や文化の一面しか理解できなくなるということ

エ 衣服のみで、その人自身の社会的属性を判断すると、全体の特質を誤認する可能性もでてくるということ

問二 ② リクルート・スーツは……見えてしまうとあるが、それでも就職活動の際に「リクルート・スーツ」を着る理由として最も適当なものは、次のどれか。

ア 堅実なイメージのスーツを着ることで、働く意志を示すとともに、自分に仕事能力があることを主張したいから

イ 他の人と同じスーツを身に付けることで、自分の未熟さを表面的に取りつくりおおうと考えているから

ウ 自分にファッションセンスがあることを強調するためには、堅いイメージのスーツをさりげなく着こなすことが必要だから
エ 社会人として働く意志があることを企業に示すためには、実用的なスーツを着用したほうが効果的だから

問三 本文中の[A]から[D]の文を正しい順序に並びかえたものは、次のどれか。

ア	「 A 」	↓	「 A 」	↓	「 B 」
イ	「 C 」	↓	「 C 」	↓	「 D 」
ウ	「 A 」	↓	「 A 」	↓	「 D 」
エ	「 C 」	↓	「 D 」	↓	「 B 」

問四 (a) から (d) に入る語の組み合わせとして適当なものは、次のどれか。

ア	「 a また」		「 b たしかに」		「 c しかし」		「 d たとえば」
イ	「 a たとえば」		「 b また」		「 c たしかに」		「 d しかし」
ウ	「 a しかし」		「 b たとえば」		「 c また」		「 d たしかに」
エ	「 a たしかに」		「 b しかし」		「 c たとえば」		「 d また」

問五 ※ に入る語として適当なものは、次のどれか。

ア	印象操作	イ	就職戦線
ウ	象徴的属性	エ	存在意義

問六 **I**から**IV**に入る語の組み合わせとして適当なものは、次のどれか。

- | | | |
|---|---------------------|--------------------|
| ア | I 爽やかな印象 | II 柔らかい色彩 |
| | III 軽いイメージ | IV きびきびした外見 |
| イ | I 軽いイメージ | II 爽やかな印象 |
| | III きびきびした外見 | IV 柔らかい色彩 |
| ウ | I 柔らかい色彩 | II 軽いイメージ |
| | III きびきびした外見 | IV 爽やかな印象 |
| エ | I きびきびした外見 | II 爽やかな印象 |
| | III 柔らかい色彩 | IV 軽いイメージ |

問七 ^③ こうした理由があると思われる。とあるが、「こうした理由」

の内容として適当なものは、次のどれか。

- ア 女性は、私生活や職場において、ファッション産業とメディアが作り出すスタイルをどのように取り入れているかによって、自分の能力までもが判断されてしまうということ
- イ 一般的に、着る衣服によって女性は評価されるとともに、その時々状況定義も、服装によって明確にすることが求められること
- ウ 女性は、女性としての役割に応じた衣服が求められるため、日常的にその日の仕事の内容に合わせた服装を工夫していること
- エ ファッションに対する強い関心を持つことが女性には必要と

されるが、同時に、衣服を通じて積極的に独自の仕事の場を創出していくことも要求されるということ

問八 ^④ 彼女が……であった。とあるが、「最初に」そのような行動

をとった理由として適当なものは、次のどれか。

- ア 男性社会で仕事を成功させるためには、女性らしさより動きやすさや実用性のある服装が何より求められているから
- イ 派手なファッションでは以前の自分と変わらないので、まず質素で目立たない外見にしなければならぬと考えたから
- ウ 自分の計画を成功させるためには、役割にふさわしい印象の外見を作り出すことが最も効果的であったから
- エ 「キャリアウーマン・ファッション」を装い、とにかくどのような役割にも自分が適応できることを示したかったから
- 問九 本文の中で述べられている内容と合うものは、次のどれか。
- ア 女性が男性社会の中で男性以上の評価を得るためには、テラード・スーツを身に付ける以外に手段はない。
- イ 「キャリアウーマン・ファッション」は状況定義の力を持つが、働く女性たちは自分の外見や印象を考慮する余裕はない。
- ウ かつて私生活における価値観を示していた女性の服装は、現在は社会的な役割に定めるものとなっている。
- エ 女性がファッションに関心を持つのは、その社会的な意味を理解し、活用しようとしているからである。

五

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

女剣士「以登」は、父「甚左衛門」の配慮により、羽賀道場の筆頭剣士「江口孫四郎」と念願の試合をすることになった。

以登は胸がおどった。こんなに落ちつきのない気持ちで、

(a) 試合が出来るのかと自分を怪しんだが、胸の中のくすぐられるような喜びは消えなかった。このひとは、(b) 自分を好敵手と認めてくれるのだと確信出来たからである。それならば、いい試合をしなければとも思った。

「すぐに支度をして参ります。父が見届け役を勤めるそうでござります」

「それは光栄でござる」と孫四郎が言った。

高塀に囲まれた以登の家の屋敷は、正味一千坪を越えている。前庭家の横手の坪庭のほかに裏手に自家用の青物を作る畑があった。その畑の一角に、砂と粘土を入れて固くならした場所があって、そこが稽古場になっていた。

時期は長い梅雨がようやく明けはじめたところで、屋敷のまわり、塀の内に鬱々と茂る木々の梢をかすめて、強い日射しが稽古場に射しこんで来ていた。

白く乾いた土の上に二人ははだしで向かい合った。以登は稽古袴をはき、白い布で襷、鉢巻に装ったが、孫四郎は用意して来たらし

い細縄で簡単に袖をくくっただけだった。孫四郎がさげているのは普通の袋竹刀、以登は獣皮で包んだやや細身の竹刀を手にしている。

「では、はじめよ」

①と甚左衛門が言い、二人は竹刀を上げた。星眼の対峙になったが、以登は眼の前にやわらかい壁のようなものを見た。孫四郎の構えには一分の隙もなかった。羽賀道場で立ち合った二人の構えのようなこわばりがなく、それでいて対峙しているうちに次第に圧迫感を覚えるようなものが、眼の前にそそり立っているのを、以登は感じる。

だが、以登が父から学んだ剣は、打って打たせ、打たせて打つその一瞬の遅速の間に勝敗を賭ける攻撃の剣である。以登は、踏みこんだ。「Ⅰ」

「えい」

剣を上げ、間合いに踏みこむと同時に打つ、一連の以登の攻撃には、以前、羽賀道場の高弟を破った神速の技が秘められているのだが、孫四郎は眼にもとまらぬその打ち込みをばちりとね返した。身体を入れ替えて、再び打ち合う。勢いのままに数間を走り、向き直ってさらに間合いを詰めては打ち合った。「Ⅱ」

打ち合っているうちに、②以登はなぜか恍惚とした気分に含まれるのを感じた。身体はしとどに濡れ、眼がくらむような一瞬があったが、その一瞬の眼くらみも、不快感はなくて (c) 甘美なものに思われた。照りつける日射しのせいだけではなかった。どうしたことか、身体は内側から濡れるようであり、恍惚とした気分も、身体の中から湧き出るようでもある。

以登は顔を振って、まぶたに落ちかかる汗を振り落とすと、かつと眼を見ひらいた。その眼に、孫四郎が上段に剣を移すのが見えた。

「Ⅲ」

はげしい気合とともに、以登は踏みこんで電光の打ち込みを孫四郎の脇に放った。だが、竹刀は空を衝き、逆に以登の右腕がびしりと鳴った。腕がしびれた。同時に以登は甘い眼くらみに襲われて倒れかかり、孫四郎の手で身体を支えられるのを感じた。以登はそのまま崩折れて、右膝を地面に突いた。「Ⅳ」

「それまで」

父の声がした。

「何じゃ、いまま少しかえるかと思つたが、江口にかかつては子供同然じゃな」

と甚左衛門は言つたが、口ほどに不快そうな声音ではなかつた。以登は眼をひらいた。孫四郎の静かな眼が、以登をのぞき込んでいた。首を回して父を見ると、甚左衛門は、以登が孫四郎と試合したいと頼んだときと同じ奇妙な眼つきで娘を見ながら、うなずいた。

「江口を庭に案内し、あとでお茶をさし上げろ」

ゆつくりと庭を眺めて回り、そのあと以登のお点前で茶を喫した孫四郎が帰つたのは日暮れだった。門まで孫四郎を見送って、以登が家に戻ろうとすると、すぐに甚左衛門に呼ばれた。

③「どうだ、これで気が済んだか？」

「はい」

と以登は言つた。

「江口孫四郎は好漢だが、二度と会うことはならん。そなたは、婿となる男が決まった身だ」

「わかつております。ありがとうございました」

と以登は言つた。そのときには以登にも、もうわかつていたのである。江口孫四郎とひとたびは試合をとねがった、あのはげしい渴望が恋であり、その気持ちをまた、どういふわけか無骨な風貌の父親が察知して、ののしるかわりに粹を利かせて孫四郎に会わせただけだということも。だが恋ならば、それは思い切るしかなかった。父に言われるまでもない。

眼がくらむほどの一日が訪れ、そして去つたのを以登は感じた。

「それに、江口にも内々で縁組みの話が進んでおるらしい」

と甚左衛門は言つたが、以登は相手の家がどこかとも問わなかつた。胸の中で、終わった恋の行方を追つていた。

江口孫四郎とは、二度と会うことはないだろうという気持ちははつきりしていた。きっぱりと物事のけじめをつけることには慣れている。だが、心までは縛れないし、その必要もなからうと以登は思った。きっぱりと思ひ切つたがゆえに、孫四郎に対する気持ちは、ほどよい距離をおく秘めた物思いと変わり、むしろはばかりなく深まって行くようにさえ思われた。

甚左衛門の部屋を出て、自分の部屋にもどりながら、以登は孫四郎に打たれた腕をおさえた。そこに残る痛みを、(d) 生涯にただ一度の恋を思い切つた痛みに似通っていると、以登は思った。

(藤沢周平「花のあと」から)

- (注1) 好敵手⇨勝負事などで力のつりあったよい相手。ライバル
- (注2) 星眼⇨正眼。剣道の構えの一つ
- (注3) 対峙⇨向き合って立つこと
- (注4) 高弟⇨弟子の中でも最もすぐれた人
- (注5) しとどに濡れ⇨ひどく濡れ
- (注6) 好漢⇨好ましい男

問一 (a) から (d) に入る語の組み合わせと

して適当なものは、次のどれか。

- ア 「a はたして b やはり c むしろ d おそらく」
- イ 「a やはり b おそらく c はたして d むしろ」
- ウ 「a むしろ b はたして c おそらく d やはり」
- エ 「a おそらく b むしろ c やはり d はたして」

問二 ^① 以登は眼の前にやわらかい壁のようなものを見た。とあるが、

「やわらかい壁」の説明として適当なものは、次のどれか。

- ア 緊張した構えの中に「孫四郎」の意気込みが感じられるということ
- イ 隙のない構えの中に「孫四郎」の自分に対する敵意が感じられるということ
- ウ しなやかな構えの中に「孫四郎」の大きな力が感じられるということ

エ ゆとりのある構えの中に「孫四郎」の自分に対するあなどりが感じられるということ

問三 ^② 以登はなぜか恍惚とした気分に包まれるのを感じた。とある

が、その理由として適当でないものは、次のどれか。

- ア 恋いこがれた「孫四郎」と会うことができ、「孫四郎」も自分に好意を持っていることがわかったので嬉しく思っているから
- イ 「孫四郎」の素晴らしい実力を肌で感じ、今まさに剣を交えている喜びと充足感に浸っているから
- ウ 「孫四郎」が、自分を一剣士として認めて試合をしていてい
- エ 試合を通じて、それまで気づいていなかった「孫四郎」への思いがつのってきたから

問四 ^③ どうだ、これで気が済んだか？とあるが、その時の「甚左衛

門」の気持ちとして最も適当なものは、次のどれか。

- ア 実力者の「孫四郎」と互角に戦った娘への賞賛
- イ 自分から願った試合にあっさり負けた娘への怒り
- ウ 恋する人と一緒にしてやれない娘への申し訳なさ
- エ あきらめるしかない恋をしている娘へのいたわり

問五 ④ ありがとうございましたとあるが、その時の「以登」の気持ちとして適当なものは、次のどれか。

ア 父が、自分と「孫四郎」の剣の実力を見抜いて、どちらが上か決着をつける機会を与えてくれたことに対する感謝

イ 父が、自分の恋心に気づいて、それは思い切らなければならぬと今初めて気づかせてくれたことに対する感謝

ウ 父が、自分が「孫四郎」に恋していることに気がつかないまま、偶然試合を許してくれたことに対する感謝

エ 父が、「孫四郎」を想う自分の気持ちを察知して、試合をさせてくれたことに対する感謝

問六 ⑤ ⑦ 粋を利かせて、はばかりなくの本文中での意味の組み合わせとして適当なものは、次のどれか。

ア ⑤ 善悪を見分けて ⑦ 我慢することなく

イ ⑤ 無理を言って ⑦ かくすことなく

ウ ⑤ きっかけを作って ⑦ 気兼ねなく

エ ⑤ うまくとりなして ⑦ 遠慮なく

問七 ⑥ 以登は相手の家がどこかとも問わなかった。とあるが、その理由として最も適当なものは、次のどれか。

ア 相手が誰か知ってしまうと、「孫四郎」に対する秘めた思いを断たなければいけなくなってしまうから

イ 思い切ると決めた「以登」にとっては、「孫四郎」の相手が誰であるかは重要ではないから

ウ 相手が誰かを尋ねると、「孫四郎」への恋を思い切れずにいることを、父に悟られるから

エ 「孫四郎」への恋はもう終わったことであり、恋を思い切った痛みを早く忘れてしまいたいから

問八 次の一文が入るところは、本文中の「Ⅰ」から「Ⅳ」のどこか。適当なものを後から選べ。
その脇に、毛筋ほどの隙を見た。

ア 「Ⅰ」 **イ** 「Ⅱ」 **ウ** 「Ⅲ」 **エ** 「Ⅳ」

問九 本文中から読み取れる「以登」の人物像として最も適当なもの、次のどれか。

ア 表面上は父の意向に従うふりをするが、心の中では自分の思いを貫こうとする頑固な人物

イ 恋に対しても、自分の気持ちに整理をつけることができる心の強い人物

ウ 恋を知って心が揺らいだが、剣士として生きていく意志を固めた向上心のある人物

エ 自分の力ではどうしようもないことについては、きっぱりと忘れることのできる潔い人物